

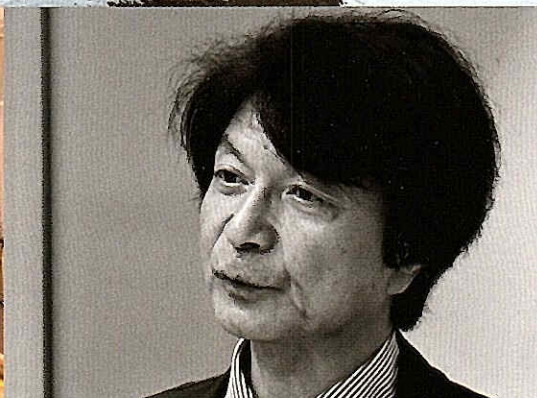
東日本大震災から10年の思い

# レクイエム・プロジェクト仙台2021

## また逢える ～いのちの日々かさねて～

ローカルジャーナリスト・寺島英弥氏が書き下ろした4篇の詩による  
混声合唱組曲が仙台から生まれる！ 待望の完成初演！

飯舘村の冬景色



×レクイエム・プロジェクト仙台2021の活動は、「令和3年度宮城県NPO等による心の復興支援事業」補助金交付事業として実施しています。

主催：レクイエム・プロジェクト実行委員会、レクイエム・プロジェクト仙台実行委員会

特別協賛：(株)ケー・エフ・シー

協力：和田 忠<グラフィックデザイン>

小田島 智<小田島ピアノ調律所>

(株)エムプロジェクト<ライブ配信、収録>

2021年

9/11 SAT

午後2時30分開演  
午後1時30分開場

会場：多賀城市文化センター（大ホール）  
多賀城市中央二丁目27番1号 TEL:022-368-0131 (代)



## ごあいさつ

レクイエム・プロジェクト代表：上田 益（作曲家）

本日は何かと出かけにくい状況の中、ご来場いただき誠に有難うございます。

昨年来、コロナ禍による社会の混乱が約1年半続き、未だに出口の見えない状態です。その中で東日本大震災から10年という節目の日を迎えてからちょうど半年が過ぎ、仏教でいえば月命日です。世の中の多くの人たちは、コロナのことで頭が一杯で、あの日のことをまるで忘れたかのような2021年に思えるのは、私だけでしょうか。

あの日、日本いや世界の多くの人たちが惨禍の目撃者となりました。

絶望にも似た深い悲しみが、日本中を包み込み、「いのち」に対する思いを新たにしてから10年。

それは希望と日常が失われてから10年が経過したと言い換えることができるかもしれませんが。震災で傷ついた心を抱え、その影を引きずりながら生きていかざるを得ない被災者の方々にとっては、失ったものを取り戻すためには10年ではとても足りないように思います。

2013年4月、レクイエム・プロジェクト仙台は活動を開始しました。阪神・淡路大震災の被災地「神戸」で、2008年に始まったこのプロジェクトですが、宮城県あるいは仙台で活動する音楽家を誰も知らないどころか、まったく知人すらいらない仙台という土地で私が活動を始めてから丸7年が過ぎ、現在8年目に入っています。

言ってみれば当事者でもないよそ者の私が、厚かましく東日本大震災の被災地に足を踏み入れ、地元の人たちにとって得体の知れない合唱プロジェクトを仙台で始めて8年目ということにもなります。

疎ましく思われているであろうことや、誤解されていると感じることも、いまだにあります。それでも8年という時間の中で、少しずつですが理解が得られてきたようにも思います。

東日本大震災から10年を迎えている今、どんな社会が見えているでしょうか。昨年からのコロナ禍で、多くの社会活動が制約を受け、分断が進み、人々の心や人間関係にも多大な影響が現れています。

昨年はコロナ禍の影響により、私たちが全国7箇所の活動地域で一定期間の活動休止やコンサート延期を余儀なくされました。2020年7月に活動を再開する際、各地の合唱団員や関係者に送った文書があります。その中で一番伝えなかったことは、『歌うこと、歌を通して表現すること、人が集い精神的な何かを共有することで支えられてきた精神生活の「質」や、「心」に関わる大切な部分が、プロやアマチュアに関わらず、このコロナ禍により失われようとしていることへの危惧と、それをプロジェクトとして乗り越えていく主宰者としての決意』でした。

コロナ禍により国内全てが、被災地になった感があります。なぜなら「希望と日常」が失われてしまったように思えるからです。私たちは、被災地の詩人とともに創ってきた作品の演奏を通して、「いきる」ための心の支えと、亡き人々への「いのり」を共有し、失われた「希望と日常」を取り戻していく活動を共に行ってきたと言えます。人と人、被災地と被災地が、信頼関係を築きながら繋がっていくための努力は、今後も大切です。

そして本日は、仙台から生まれる混声合唱組曲「また逢える」全4曲の完成初演という、仙台でのプロジェクトにとって、とても重要な日でもあります。

東日本大震災から10年目となる年の、今日のこのコンサートが開催できたのは、団員の皆さんはもちろん、活動当初から指導と指揮を続けてくださり実行委員長でもある工藤欣三郎さんの強い思いと、実行委員の方々に様々な面で支えていただいたからこそ。そしてまた指導の一端も担っていただいている佐賀慶子さんのお力添えあってのものと、心から感謝申し上げます。

コロナ禍の中にあっても油断することなく、諦めることなく、前向きに生き活きと活動を続けていくためには、どうしたらよいか。それぞれの活動地域が抱える現実を前に、いつも自問自答を繰り返しています。

本日は、犠牲となった多くの方々への追悼と、先が見えない状況が1日でも早く好転することを願い、ご来場の皆様とともに思いを共有する時間を過ごすことができれば幸いです。

レクイエム・プロジェクト実行委員会

代表：上田 益 副代表：高田 薫

レクイエム・プロジェクト仙台実行委員会

実行委員長：工藤欣三郎

事務局：池田紀子、針生利志子、宮城久美子、吉岡恵美



第1部

① 久慈市在住の詩人・宇部京子氏の作詩による作品から……………指揮：工藤欣三郎 ピアノ：菅原紀子

1. 風のように

すごくすごく くじけそう こわれてしまいそう	月も星も雲にかくれ 見上げる闇の夜
こおりついた白い夜 見上げる星屑	そう あの日の あなたのやさしさが くやまれて
そう あの日は あんなに ふざけあっていたのに	けれど 明日また日はのぼる オレンジ色の朝日が あざやかに だから つよく つよく 風のように やさしく あなたはわたしの中で生きてゆく
とてもとても つらくて 涙もでてこない	

4. とうさんの海

さみしいとき うれしいとき まよったとき つかれたとき	とうさんとおなじ 背中 かいがらを ひろう とうさんとおなじ 目線で 水平線を みる とうさんとおなじ 手つきで はまなすを たおる とうさんとおなじ 歩幅で すなはまを あるく
--------------------------------------	--

② レクイエム ～あの日を、あなたを忘れない～ <全音楽譜出版社刊>より抜粋……………指揮：上田 益 ピアノ：菅原紀子

歌詞対訳

- |                                      |  |   |
|--------------------------------------|--|---|
| 1. Requiem aeternam<br>(レクイエム・エテルナム) | ↓ 永遠の安息を 彼らにお与え下さい、<br>主よ。絶えざる光が 彼らを照らしますように。<br>神よ、シオンでは賛歌があなたにふさわしく、<br>エルサレムではあなたへの誓いが果たされます。 | 私の祈りを聞いて下さい。<br>肉なるものはみな あなたのもとに来ます。<br>絶えざる光が 彼らを照らしますように。<br>永遠の安息を 彼らにお与え下さい、主よ。 |
| 2. Kyrie<br>(キリエ)                    | ↓ 主よ、憐れみたまえ<br>キリストよ 憐れみたまえ<br>主よ、憐れみたまえ   |   |
| 5. Lacrimosa<br>(ラクリモーザ～涙の日～)        | ↓ 涙の日 その日は<br>罪ある者が裁きを受けるために<br>灰の中からよみがえる日です。<br>神よ、この者をお許しください。                                | 慈悲深き主、イエスよ<br>彼らに安息をお与えください。<br>アーメン。   |
| 9. Lux procul<br>(光の彼方へ)             | ↓ 光 光 光の彼方へ<br>光 光 きよらかな光 やさしさ…<br>未来が輝いている 光よ永遠に  | 苦悩 苦悩を乗り越えて<br>光 光 光の彼方へ  |
| 10. Ad futurum movere<br>(未来に向かって)   | ↓ 光、光 夢に向かって 光、光 未来に向かって<br>光よ永遠に、光よ永遠に  | 聖なるかな 未来 聖なるかな 夢<br>希望を捨てないで欲しい夢をあきらめないで欲しい   |

歌詞：上田 益(4.7.9.10)、典礼文(1,2,3,5,6,8)

上田 益の歌詞は、マリボンヌ岡本様によりラテン語訳されています。

## 第2部 詩:寺島英弥 <完成初演>

### ① 混声合唱組曲「また逢える」～いのちの日々かさねて～ ..... 指揮:工藤欣三郎 ピアノ:菅原紀子

#### 楽曲が生まれる経緯

これまでレクイエム・プロジェクトでは、福島の和合亮一さん、岩手の宇部京子さん、広島の上田由美子さん、沖縄の伊波希厘さんといったプロジェクト活動地域(被災地)の詩人に書き下ろしていただいた詩を元に、被災地の思いを歌に託す合唱作品の創作に取り組んできました。

そして仙台からも同様に新しい作品を創りたいと兼ねてから願っていましたが、2019年に工藤欣三郎さんのご紹介で福島県相馬市のご出身で、河北新報社の報道部記者、編集委員、論説委員を歴任され、現在もローカルジャーナリストとして東日本大震災被災地の取材などを続けておられるほか、尚絅学院大学客員教授として後進の指導にもあたっておられる名取市在住の寺島英弥さんに出会い、詩をお願いしたのです。

詩の依頼のためにメッセージのやり取りをさせていただいたのが、2019年6月19日。その時のやりとりの中で、寺島さんは「私は一介のジャーナリストです。ただ被災地を8年歩いて、終わらない苦難と希望の狭間で生きる同胞たちの声を伝えようとしてまいりました。古里も被災地になった私の人生の仕事になりました。詩人ではありませんが、それでもよろしいのでしょうか」とのお話があり、私は「言葉、文章で、被災された方々のたくさんの思いを綴り伝えていっしょだった寺島さんだからこそ、お願いしたいと心から思っています」とお伝えしました。詩のスケッチを受け取ったのが同年9月初旬。そこから何度かプレストさせていただき、9月末に詩が出来上がりました。

詩を歌う、言葉を歌うことを大切にしているレクイエム・プロジェクトに相応しい詩を書き下ろしていただきました。

創作を始めていく中で始まった2020年1月からのコロナ禍。作曲の作業は、まさに全国が自粛の嵐の只中にあり、レクイエム・プロジェクトの活動も一時停止している状況下でのことでした。(上田益 記)

#### 1. あの日

明日 それはどんな時だったのか  
昨日 人の暮らしは のどかに明け暮れ  
古き町は永遠(とわ)に変わらぬと信じた  
目の前にあるものは なにもなくなった町

浜 そこに何が満ちていたのか  
市場 朝 帰り船 水揚げ ざわめき  
イカ焼くばあちゃんよ 夏の子どもらよ  
目の前にあるものは わが家の跡を探る人影

あの街も 暮らしも みんなどこへ  
松原も 港も 漁師も みんなどこへ

波が洗ったトンネルに  
幾多たたずむ影のあり  
高き岩場におられた地蔵  
なぜか海に面(おもて)向け  
祈り捧げる姿にて  
潮の騒ぎに声交じる

「共に泣け されど信じよ 遠けれど明日を」

#### 2. 一枚の古いレコード

たった一枚落ちていた ジャケットのない 古いレコード  
針を落とせば トランペットが 輝くばかり  
店にあふれた 南の島の coffee(コーヒー)の香り  
あの日は夢のように消えて たった一枚 古いレコード

青い空に飛ばされた 店の形見の 古いレコード  
ひげのあるじは後も追わずに「もう振り向かない」  
海が残した砂の中 春の陽浴びて 黄色い水仙  
レコードより大切な たった一つの 夢を見つけた

終のすみかだと 住んだこの地に  
また 店をつくらう

憩う場がほしい 誰かのために  
私は 立ち上がる

#### 3. また逢える

大切なものを喪(な)くすから 人は悲しむ  
私にとっては あの子 私の命  
だれの声も届かぬ間に 私はいた  
光の差さぬ世界で 泣いていた

命も消えかけた その時 私は確かに聴いた  
「また逢える」 だから生きると  
「いつか逢える」 だから生きると  
精いっぱい命を生き  
その先で あの子は待っていると

哀しみなさい 泣きなさい  
哀しみのなか あの子は生きる  
哀しみは 私の愛  
あの子の愛

光の先の あの子に導かれ  
残された この生(いのち)をたどる

また逢える  
いつか逢える  
魂となって逢える日まで

#### 4. このいのち 明日へ

天明の代の同胞(はらから)たちが  
冷たい雨の夏 実りなき田に泣き  
望み失い 道に伏し 家を捨て  
されど わが祖は 荒れ野に鍬(くわ)を振るった  
そして われら ここに生(せい)を受けた

新たな苦難が降り注いでも  
思い継ごうと 私はこの地に戻り  
荒れ野耕し 鍬振るい 種をまく  
あの子らが この地に還る日のために

長き日々をかさねて  
ふるさとに 生かされてきた  
きつと還る 約束の旅

このいのち 明日へ





# 10年目の 思い

※原文のまま  
記載しています。

10年前のあの日の夜、今まで見たこともないほどの星々に驚きながら思った。

子供じみているとはわかっているけど、こんなにたくさんの人々がこの世に別れを告げているのかと…だから、何もできなかった私は自分の惨事を嘆いてはいけなと。

懸命に立ち上がろうとする人々の迷惑になってはいけなと、淡々と日々をかさねて、4年も5年も過ぎていった。

そんな私に「レクイエム・プロジェクト」は、唯一のなぐさめだった。ラテン語はためらいなく声に出せて、そのメロディーはほんのひととき現実を忘れさせてくれたから。同じ曲を歌うだけで、去年まで見知らぬ土地の見知らぬ人々が、隣に立つ友人にもなった。

実は同じ痛みを持っていた友人たちは、仙台に来るたびに私の心を溶かし、そして最後には私がしまい込んできたものを吐き出させてくれた。あの日の恐怖、あの日の苦しみ、あの日の悲しみ、あの日のすべてを…

今も「レクイエム」の舞台に立つたびに、あの日を思う。けれど今は、ともに歌う人々とこの時を分かちあえる。私はひとりでもういいのだと教えてくれる。

匿名希望

東日本大震災のあった2011年3月11日、私は民生委員をしておりました。震災直後から、近くの県の運動公園でヘリコプターの爆音が一日中しており、沿岸地域に物資を運んでいるのだと思いました。そんな折、民生委員の会合で町長さんから、県の体育館に海で収容された約3000体のご遺体がヘリコプターで運ばれたことを聞き、大きなショックを受けました。

2013年11月にレクイエム・プロジェクト仙台の初のコンサートが行われ、和合亮一さん作詞の「黙礼」が唄われました。この歌詞が震災直後に体育館に収容された数多くのご遺体と重なるように、私には思えてなりませんでした。

そして2021年、唄う歌は代っても今もその思いは続いております。

利府町 西島恒郎

## もう10年…

あの日、雪がちらつき寒さで震えた夜、私は避難所の体育館にいた。漸くの思いでたどり着いた我が家、そこは郊外の高台、仙台に骨を埋める覚悟で建てた築5年の家の敷地に、事もあろうか、幅30cmの亀裂が、真っ黒い口をあけて何本も走っていた。目の前の水道管本管からは水が吹き上げ、容赦なく我が家の土台の土を押し流して行った。

“山津波”だった。後に集団移転した地域もあったほど、内陸部でも大きな地殻変動が起きていた。

こじ開けた玄関は鏡が粉々になって散乱し、靴のまま入った。目の前の状況に身体が冷たくなっていくのを感じた。ほんの数時間前の我が家はどこへ行ってしまったのか。激しい余震の中、避難所で手渡されたのはペットボトルの水一本だけだった。沿岸部の被害が甚大であることをその時知った。

2014年ウイーン、主人と共に聖シュテファン大聖堂に立ち、「レクイエム～あの日を忘れない～」を歌わせて頂いた。たくさんの人々の祈りで満たされているあの荘厳な場所で演奏できたことの感動は忘れられない。

震災後の我が家は、遅々として進まない生活再建、義母義父の介護と見送り、市内の復興が進む中取り残されていくようで、何度も奥歯を噛み締めて来た。果ては突発性難聴、歌おうとすると声が出ない。医者通いの連続。でも、いのちを失くされた方々から比べたら、との思いから泣くことも出来なかった。そのような行き詰った中での演奏旅行だったが、シュテファンの響きに包まれて、なんと、夫婦共に段々と心が軽くなっていくのを感じた。あ、大丈夫。また頑張れると。古くから救われを祈って来たあの場所での演奏、救われたのはまさに私たちだった。感謝。

この時からレクイエムプロジェクトに参加、歌わせていただく曲は、いつもこの10年の自分の想いと重なり、美しいメロディと共につい惹き込まれてしまう。その歌詞が身近で“今”を生きている言葉だからかもしれない。10年、短いようで長かったこの年月を優しく支えてくれた友人と歌仲間たち。出逢えたことに感謝の気持ちが溢れる。

あの日を忘れることなく、亡くなられた方への慰霊の気持ちと、そして今もあの日の辛さを抱えながらも、笑顔で一生懸命に生きている人を想い、歌い繋ぎたいと思う。

仙台 佐賀慶子

## 家族の顔

東日本大震災発生の日、私は福島県いわき市にいた。地震直後からの常磐道、磐越道の被災箇所の点検から始まり、不眠不休の復旧工事を行った。翌3月12日には福島第一原発1号機が水素爆発を起こし、その後も原発の被害は拡大した。人々は逃げ、被ばくを恐れて資機材が入ってこない中、懸命の復旧工事を続け、高速道路を一般に開放したのは3月24日の朝である。

単身赴任先のいわき市から自宅に帰ったのは、地震発生から14日目の3月25日であった。わずか半月会わなかった家族の顔がとても懐かしく、愛おしかったのを覚えている。

混声合唱団グラン 伊藤 晃

昨年からのコロナ禍の不安と恐怖で、被災の記憶も薄れてしまいそう心配です。

だからこそこの時に「また逢える」という曲を歌うことはとても意義のあることに感じます。この曲に出会えたことに感謝します。

10年たったからこそ言えることですが あの時 遠い親戚の人や、知人が命を失い、家族の大切な友人達が家を失いました。福島に居る娘からの泣き声まじりの不安そうな電話。被災地を訪れた時の衝撃。変わり果てた景色にただ、ただ涙が溢れたこと。様々な記憶で胸がいっぱいになります。

この曲を通して被災者の方々が計り知れない悲しみや苦しみを逞しく乗り越えつつあること。そして私たちは生かされていること先人たちの労苦のうえに生きていること命ある限り次世代が希望を持てる世界になるように努力せねばならないこと。

あらためて考えるきっかけになりました。今回私たちの歌を聴いてくださる方々に何かしら伝えられたらうれしいです。

仙台市青葉区k.w

また逢えるの一節に、昨日、人の暮らしはのどかに明け暮れ、目の前にあるものはなにもなくなった町…。2011年3月11日14時46分、其れは突然襲った!3階建ての集合住宅屋上に泥まみれの車が乗上げ、窓と言う窓はズタズタに破壊され、道路には土台から剥がされた家々が重なり合い、親しい友人も亡くなった。その惨状を目の当たりにした私は十年近く海を見るのが怖かった。しかし十年を経た今、少しずつ日々の営みが甦り、町は生き返った。生涯忘れる事のない強烈な体験を胸に、無念の死者の魂に思いを致し、コロナ禍の中この機会を下さった皆様に感謝申し上げ、言葉に心込め歌いたいと思います。

ありがとうございました。

混声合唱団グラン 大内敏子

## 10年に寄せて

津波避難タワーを見ながら、仕事で車を走らせる。新しい家が並び、田んぼが広がる風景は、のどかさを感じる。少し違うのは、松林が無くなって、風が強く、遠くにも、海の匂いがしてくる。当時、生存確認に、必死で車で回ったのが、夢だった気さえしてくる。新聞には、以前は震災の犠牲者数だったが、毎日コロナの数字が並ぶ。

匿名希望

## 東日本大震災から10年を迎えて!

小心者の私は地震の揺れが始まってすぐに玄関を飛び出し 庭先に四つん這いになり、目の前の電柱が左右に揺れ電線が大きく波打っているのを "止まれ!止まれ!止まれ!"と、念じながら見つめるばかりでした。

幸い大きな被害の無かった私が10年間欠かさず行ってきた事 またこれからも続けるであろう事は毎朝 "一日も早く 被災された方、ご遺族の方が心穏やかに過ごせますように!"と神仏に手を合わせる事だけです。

匿名希望



## レクイエムに想う

2011年3月 東日本大震災にこの仙台で遭遇し、壮絶な惨状を目の当たりにし、人々の苦しみ、悲しみを共にわかちあったあの日々……。もう10年の月日が流れたのかと感慨にふけるこの頃です。

震災から数年あとに、縁あって、上田先生の「レクイエム・プロジェクト仙台」に入会し、レクイエムを歌う機会を得ました。第1曲「レクイエム」の荘厳な出だしに人々の思いを重ね、胸を熱くしたものでした。10曲を歌い切った時には、肉体の疲れの内にも何とも言えない爽快感が残りました。

事情があり、その後プロジェクトを離れましたが、今回、再度レクイエムを歌うチャンスを与えて頂きました。10年経った今、どのような思いでこの曲を歌うのだろうと、私自身に問いかけながら歌いたいと思っています。

混声合唱団グラン 太田 農夫也

10年前の大震災を忘れないように、レクイエム・プロジェクトがずっと続いていくことを願っています。

沼崎啓子

東日本大震災津波で命を落とした友人が埋葬されている 池田記念公園墓地へ行って来ました。不忘山の麓にあるので足が遠のいていましたが、これで本番は何となく心落ち着いて合唱（合掌）できそうです！

混声合唱団グラン、小川正人

自分への震災第一弾は2005年11月15日、出張中東京で聞いた、家内の救急搬送、現在に至るまで、声は直接聞いたことはありません。老健・特養と国の制度と運用に振り回され、早や16年。突然回復する!という事例を信じて希望を絶やさないでいる毎日です。

第二弾が2011年3月11日、東日本大震災、近親者に直接の死傷者はいなかったものの、友人関係者の多くに甚大な被害を聞き、神も仏も無いものか!と。暗い夜を、ガスも水も電気も無い数日かけていつ来るかしのれないガソリンを待って並ぶ日々。少し落ち着いても、これから、どんな生活をして行ったら……。そんな中2013年、上田先生のレクイエムプロジェクトに出会いました。慣れない、ラテン語ではありましたが、わからないまでも、訳していただいた語意にかじりつき、やっと暗譜もできました。

私にとってレクイエムは、家内がたとえ口は利けなくても、健康的に過ごせるようにとの応援歌です。ウィーンのシュテファン大聖堂で、ヴァチカン寺院で、ポーランドの教会で歌い・祈ることができたのは何よりのことです。

第三弾がこのコロナ禍、一年半も家内と面会できていません。国と政府の無策に後手後手対応に、うんざりしているところに、自身の腎不全悪化・透析の止む無きと踏んだり蹴ったり。

各地の皆さんにも、会えなくなるのかな〜。東京のさん・さん広島のMさん、神戸のAさん、長崎のKさんはじめ多くの皆さんとの再会が力になるのです。レクイエムプロジェクトの仙台実施を信じて!

海老誠一

「また逢える」を歌う時、いつもいつも感情が込み上げ、涙するのは私だけではないはず。そう思いながら練習に励んでいました。どんなに時が経とうとも癒えない心。でも進んでいかなければならない日常。時に残酷と思う事もあるけれど、今を頑張る、今を生きたと思わせてくださる素晴らしい組曲。上田先生、寺島先生、ありがとうございます。思いのこもったステージを作り上げる喜びを噛み締めて、本番を楽しみにしています。

コーロ・カナリーノ 小野由起子

10年前の東日本大震災の時、私の子供は1歳でした。震災のことを知ってほしいと思い、小学生になってからは震災 遺構に連れて行ったり、折に触れて話をしてきました。しかし、小学生には10年前の出来事は、遠い昔の出来事と感ずるようで、実感が無いようです。

今回のレクイエムプロジェクトに参加させていただき、歌い続けることの意味を考えるようになりました。震災を知らない 世代が増える中で、次の世代に語り継ぐことが、歌い続けることの大きな意味であると思いました。コロナ禍で練習が困難になる中、コンサートを開催していただき、本当にありがとうございます。

コーロ・カナリーノ 40代女性

## 復興つて？

お盆も過ぎた一日、久しぶりに石巻にいきました。姉夫婦のお墓参りをし川岸にあった自宅の方に行ってみようと歩きだしました。(昨年は通行止め)所が内海橋のあたりは石ノ森漫画館が残っているだけで2つあった橋も移動され新しくなりまったく面影がなくなっていました。まして姉夫婦の家なんてどこにあったか皆目見当がつきません。道は整備され橋も新しくなったけど記憶の中にあるものはすっかり消えていたのです。盛土の所にまだ工事用のブルドーザーが止まっていた…。

新しい橋の途中で会った青年にあのあたりに掛かっていた歩道橋しりませんか?と尋ねてしまいました。姪があそこまで避難してと願った歩道橋です。でもそれは無理な質問でした。若い彼に分かるはずがないのです。

私の義兄は自宅でチリ地震津波を経験しました。その時は床下浸水だけで免れたから今度もと思ったのでしょうか…。

最近温暖化のせいか異常気象が続く災害も相次ぎ”命を守る事を最優先にして早めの避難を”と叫ばれるようになりました。“あの時大丈夫だったから”はもうありえないのです。私たちは復興で(建物?)街の姿がすっかり変わってもあの未曾有の大災害や、教訓を与えてくれた人々に生かされていることを忘れてはいけません。記憶の共有の大切さを改めて実感させられた1日でした。

Y. M

## あれから10年。

あの日 何時もと変わらない金曜日、趣味のサークルから帰宅して昼食も終わり、お茶を飲んでいました。その時一瞬で時間は止まった。スニーカーを履いて姉の部屋へ。要介護5の姉は布団の中で「私は大丈夫!」と力強い声で言った。とても救われた気持ちになった。空にはヘリコプターが行き交い。

夜になると東の空には石油コンビナート火災の火と黒煙が近くに見えた。「明日が来る」等とは思う余裕もなく数日が過ぎた。兄弟が住む岩沼、知り合いが居る荒浜、南三陸町、石巻の矢本ヘガソリンや照明用のバッテリー、食料等を持って駆けつけた。

顔を見て安心したがかなり疲れた様子だった。そんな時新聞でレクイエム・プロジェクトの事を知り入会した。介護の為合唱や歌う事から離れていた私だったけれど久しぶりに歌う混声合唱の響きに充実した思いでした。今、コロナという新しい災害

東北 仙台の人は二重の災害にも共存しなければいけない。辛さや悲しみの中でも喜びを、幸せを、日々見つけたいと思っています。

伏見郷子

レクイエムコンサートに参加させて頂きありがとうございます。プログラムの曲一つ一つにその背景を思い、練習を重ねるうちに、歌う度に、涙が出そうになった事も度々。

本日は心を込めて歌わせて頂きたいと思います。

コーロ、カナリーノ 鎌田明美

忘れもしない東北を襲った災害3.11。南三陸は親戚の家も流されてゆきました。あれから10年以上経過しました。

地震、津波、豪雨、洪水、熱波に大規模な山火事、この夏も世界中で異常気象や自然災害が続きました。最近ではコロナ禍で国内外すべてが被災地になったようです。

早くこの闇を通りぬけ、また日常という光を見るために、そして多くの惨禍にあわれた方々への鎮魂の思いに祈りを捧げます。上田益先生が2013年から仙台でレクイエム・プロジェクトを立ち上げられ、作曲された優しく慰め、励まして下さるたくさんの曲から、今回は寺島英弥さんの詩による作品「また逢える～いのちの日々をかさねて～」の初演など、工藤欣三郎先生ご指導のもと、今日は緊急事態宣言下ですが、合唱団員心をこめてこのプログラム全曲、声を合わせて歌わせていただきます。

柳沼敏子



## レクイエム・プロジェクトとは

作曲家・上田 益(うへだ すすむ)が主宰する「レクイエム・プロジェクト」は、人と人、地域と地域をつなぐ合唱プロジェクトとして、阪神・淡路大震災の被災地である神戸で2008年に始まりました。これまで全国10箇所で開催し、現在、北いわて(久慈、野田村など)、仙台、東京、神戸、兵庫県佐用町、広島、長崎といった自然災害や戦災で傷ついた7地域で継続した活動を行っているほか、海外公演(プラハ、ウィーン、バチカン、イタリア、ポーランド)も行っています。  
<https://www.requiem-project.com>



レクイエム・プロジェクト東京2015  
～戦後70年、追悼と希望、そして平和への思いを未来へ～  
(ティアラことう 大ホール)



## 現在までのプロジェクト実施地域、関連活動地域

### 神戸(2008年2月～現在)

レクイエム・プロジェクト発足の地。阪神・淡路大震災犠牲者の追悼をきっかけに2008年2月から準備活動が始まり、7月から合唱団の練習を開始。現在、活動14年目。2016年までは毎年震災の日である1月17日にコンサートを実施。2017年より、他地域の団員が参加しやすい日程で開催。各地のプロジェクト・コンサートに毎回有志が多く参加し、活動の中心的存在。毎年コンサートを開催。



### 兵庫県佐用町(2010年11月～現在)

2009年に発生した水害犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。現在活動11年目。各活動地域の中で混声合唱団から唯一の女声合唱団に昨年変更。数年に1回コンサートを開催するほか、積極的に合唱団としての定期演奏会を行う。

### 長崎(2012年9月～現在)

原爆犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。趣旨に賛同し、公募により集まった合唱団員数は全国でも有数。2015年のコンサートは長崎市被爆70周年記念事業に、2020年のコンサートは同75周年記念事業に採択。浦上天主堂で追悼コンサートを開催。現在活動9年目。ほぼ毎年コンサートを実施。

### 沖縄(2010年4月～2015年6月)

沖縄戦の犠牲者追悼をきっかけに那覇で活動を開始。2015年の沖縄戦終結70年の追悼コンサートをもって5年間の活動を終了。

### 広島(2013年2月～現在)

原爆犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。さらに2014年に発生した大規模土砂災害犠牲者の追悼も加わる。現在活動9年目。ほぼ毎年コンサートを開催。





<海外での活動>

- プラハ(チェコ)：2012年4月1日、東日本大震災チャリティーコンサートをドヴォルザーク・ホールでプラハ・フィルと開催。日本から神戸・東京の声楽ソリスト5人と合唱団有志17人が参加。在チェコ日本国大使館後援。
- ウィーン(オーストリア)：2014年10月11日、聖シュテファン大聖堂主催公式コンサート開催。東日本大震災から3年を迎え、その追悼の思いを込め、神戸・東京の声楽ソリスト(指導者)8人、仙台、南相馬、東京、神戸、広島、長崎から参加したプロジェクト合唱団有志、そして仙台フィルメンバー4人を含む総勢158人と現地のプロ・オーケストラにより演奏。
- 復興祈念と平和への祈りを込め、バチカン教皇庁の特別な許可を得て、「バチカン・イタリア特別公演」を2016年9月に実施。サン・ピエトロ大聖堂ミサでの演奏、システリーナ礼拝堂での献唱(以上バチカン)、聖フランチェスコ聖堂(アッシジ)、サンタ・トリニータ教会(フィレンツェ)での演奏会を行う。声楽ソリスト4人と各地のプロジェクト合唱団有志、総勢106人により演奏。聖フランチェスコ聖堂で初演した、プロジェクト主宰者・上田益作曲「ミサ・プレヴィス〜平安への祈り」は、初演に先立ち教皇フランシスコに献呈する荣誉をバチカン教皇庁から与えられた。
- 「レクイエム・プロジェクトinポーランド〜平和への祈り〜」を、クラコフ市特別名誉賛助後援、在ポーランド日本国大使館後援のもと、2019年10月に実施。滅多に演奏の機会を持ってないシフィドニツァ・平和教会でのオルガンとのコンサート、クラコフ聖マリア教会での献唱、聖カタリーナ教会でのクラコフ・フィルハーモニー管弦楽団との共演、ワルシャワでは聖十字架教会ミサでの演奏や、ワルシャワ大学日本学科設立100周年記念行事の一環としてコンサートを実施。



最初にプロジェクトを行った神戸では震災から13年が経過していた。それでもなお心の復興には程遠く、悲しみや苦しみを抱えて生きている人たちがほとんどだった。そのことから考えても、東北ではもっと時間が必要になると思っていたし、まずは基本的な復旧や瓦礫の処理が終わり、被災者の人たちの生活が少しずつ改善され、復興がある程度進まないことには、プロジェクトは無理だと思っていた。更には関西出身の私には、東北で音楽家の知り合いもなく、どこから手をつけたら良いのか、全くわからなかった。

ところが不思議な力に導かれるように一つの扉を開けると、思いもよらないスピードで連鎖し、レクイエム・プロジェクトが東日本大震災の被災地で動き出すことになっていった。ただ、それはあくまで今振り返ってみればの話であり、今もなお手探りの部分があることもまた事実だ。

レクイエム・プロジェクトは、それぞれ土地柄や気質も違う全国7箇所で開催する。だからこそ、被災地の詩人の詩による新しい合唱曲の練習や自由に参加できる各地のコンサートを通して、地域を越えた精神的な繋がりが参加者の間で生まれてきた。それは、それぞれが少しずつ心を開きながら、異なる惨禍とその悲しみや苦しみへの共感、そして思いを共有し合うことで、自然に生まれてきたような気がしている、ありがちな「絆」という言葉や「寄り添う」という言葉とは全く違い、心を一つにするという言葉とも違う。私は意図的にその言葉は使わないし、あえて言えば「心を重ね合う」活動だと思っている。

## 【東日本大震災の被災地における活動と関連事項の年譜】

2011年	
3月11日	東日本大震災。
3月19日	レクイエム・プロジェクト 緊急チャリティーコンサート開催(兵庫県佐用町:さよう文化情報センター)。
3月24日	ツイッターでの「詩の礫」を被災後連日投稿されていた福島市の詩人・和合亮一さんに初めて電話。プロジェクトの趣旨を伝え、新作のための詩の書き下ろしを依頼し、快諾を得る。
3月25日	レクイエム・プロジェクト 緊急チャリティーコンサート開催(神戸市:神戸新聞松方ホール)。
4月16日	福島市を訪れ和合亮一さんと書き下ろしの詩に関する打合せ。原発事故の影響で市中は閑散。
4月下旬	和合亮一さんの詩による新作混声合唱組曲の初演などを行うコンサートの準備に入る。
5月中旬	前年より打診していたプラハでの拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」レコーディングに関する打合せなどを兼ねて、プラハに滞在。プラハフィル関係者との面談と意見交換を行い、レコーディング終了後に、東日本大震災追悼チャリティーコンサート開催の可否などを相談。
6月下旬	渥美公秀・大阪大学教授から岩手県野田村でのレクイエム・プロジェクトの実施依頼がある。
7月3日	東京藝術大学音楽学部学生有志によるチャリティーコンサート(晴海トリトンスクエア2F グランドロビー)において、拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」の全曲演奏が行われる。
7月5日	震災後まだ4ヶ月ほどしか経っていない北部沿岸部の岩手県九戸郡野田村を訪問。現地で復興支援に取り組む大阪大学の渥美教授とともに、現地の女声合唱団「コールわさらび」の大澤和子代表と面会し、プロジェクトの説明を行う。また、津波で流された練習用の電子ピアノを贈呈することになるが、現地や近隣の被害の大きさを見て、プロジェクトの実施にはまだまだ時期尚早という印象を強く持つ。当面は現地に在住する詩人などとの交流を先に始めようとする。
7月中旬	和合亮一さんから新作組曲のための詩を受け取り、作曲を開始。
8月9日	カワイ出版が5月11日にスタートさせた合唱曲による被災地支援「歌おうNIPPON」プロジェクトに、レクイエム・プロジェクト佐用町2011コンサートでお披露目する拙作「大切なふるさと」を提供し、アップロードされる。
8月28日	レクイエム・プロジェクト佐用町2011コンサート。野田村の合唱団に電子ピアノを贈呈する義援金募集を併せて行う。
8月31日	野田村を訪れ、合唱団「コールわさらび」の皆さんに電子ピアノを贈呈。以後、時間を置く。
9月27日	和合亮一さんの詩による新作混声合唱組曲のうち、先行して作曲していた終曲「生きる」を、カワイ出版の「歌おうNIPPON」プロジェクトに提供。10月6日にアップロードされる。以後、順次作曲が完成し、プロの音楽家と東京藝大の音楽専攻生による合唱団の練習が10月から始まる。
10月29日	レクイエム・プロジェクトTOKYO2011コンサート開催(TOKYO FM ホールにおいて昼夜2回公演)。公演では和合亮一さんの詩による新作混声合唱組曲「黙礼」初演や、ご本人によるその詩の朗読などにより構成。今年は、「黙礼」初演から10年となる。このコンサートに先立つ10月中旬には、福島県南相馬の「ゆめはっと合唱団」メンバーの方から電話があり、津波で多くのメンバーを失った合唱団として、是非とも自分たちの合唱団でも演奏したいとお申し出だった。東京での「黙礼」初演の記事が福島の新聞に掲載され、その記事を読んだの電話だった。それがきっかけとなり、翌2012年に「ゆめはっと合唱団」の第5回定期演奏会で「黙礼」の南相馬初演が実現。



2012年

1月9日	陸前高田、大船渡を訪れる。合唱団「けせん第九を歌う会」の指揮者の千葉久美子さんと初めてお目にかかり、レクイエム・プロジェクトに関してお話しさせていただいた。
1月15日	拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」が全音楽譜出版社から刊行。
3月11日	震災からちょうど1年となる日、レクイエム・プロジェクトに参加していた声楽家・石塚幹信さんの地元・札幌で、東日本大震災チャリティーコンサートを開催(札幌時計台ホール)。
3月16日	和合亮一さんの呼びかけにより開催された「レクイエムをあなたと、雲と光のコンサート」(福島テルサFT ホール)において、拙作「黙礼」「レクイエム」の演奏、和合亮一さんとの対談を行う。このコンサートには阪神・淡路大震災の被災者でもあるレクイエム・プロジェクト神戸の合唱団員有志と、レクイエム・プロジェクト東京の活動に関わる声楽家および合唱団員有志が参加。
4月1日	チェコのプラハにおいて3月29日から31日まで、拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」のCDレコーディングをプラハフィルおよび現地合唱団、そして日本からのソリスト4人と行う。そのレコーディングに参加したメンバーに、神戸と東京のレクイエム・プロジェクトに参加する合唱団メンバー有志が日本から参加し、東日本大震災追悼チャリティーコンサートを、在チェコ日本国大使館の後援を得て開催(ドヴォルザークホール)。来場者からの義援金は帰国後、岩手・宮城・福島の3県の義援金窓口に送金。
4月10日	ヴァイオリンドクターの中澤宗幸氏が発案者となり、被災地で生まれ育ちながら津波で流され瓦礫と化した木材を材料にして制作されたヴァイオリン(震災ヴァイオリン)の演奏を、千人を目標につないでいくプロジェクト「千の音色でつなぐ絆」。そのプロジェクトのために「Triste」「夜明け」の2曲を作曲し提供。レコーディングが、岩手ヴァイオリニストのホープ、岡本誠司さん(当時高校3年)のヴァイオリンと金山春春さんのピアノで行われた。この楽曲は4月23日に、TV番組「朝ズバ」でも、岡本さんの生演奏で紹介され、以後そのヴァイオリンプロジェクトに参加する方たちにより演奏されている。
6月17日	活動3年目を迎えたレクイエム・プロジェクト沖縄のコンサートを、オーケストラとともに開催(てだこホール)。オーケストラのメンバーの1人で、福島原発事故の影響から子供を守るため、沖縄に避難していた仙台のヴァイオリン奏者から、「是非とも東北でプロジェクトを行ってほしい」と、仙台フィルのヴァイオリン奏者・大友靖雅さんを紹介される。
6月20日	前年に野田村を訪れ、電子ピアノを贈呈した合唱団「コールわさらび」代表の大澤和子さんから手紙が届く。6月18日にご縁があって東京の多摩交響楽団とのコンサートで歌う機会を得て、その中で拙作「大切なふるさと」を歌ったこと。その歌をとて気に入り、また地元でも歌うこと、機会があれば会いたいと思っていることなどが書かれ、楽曲を通して少し身近な存在となれたことを知る。その手紙を読んだ後、電話をして改めてまた野田村に行くことを告げ、地元で創作している詩人を探し始め、宇部京子さんに出会うことになる。それ以来、宇部さんとの作品は14曲。そして同じ日に、声楽家で岩手大学教授、盛岡カンタータフェライン指揮者の佐々木正利さんから直接電話をいただく。拙作レクイエムやレクイエム・プロジェクトにも興味を持ってくださっているとのことで、急遽24日に山梨大学で開催される日本音楽表現学会でのパネラーの一人として参加することになる。テーマは「震災と音楽表現」。阪神・淡路大震災をきっかけに始めたレクイエム・プロジェクトについて語ることに。さらに後日、日本音楽表現学会の論文集「音楽表現学のフィールド2」(東京堂出版刊)にレクイエム・プロジェクトに関する論文を寄稿することになる。
8月下旬	沖縄で紹介いただいた仙台フィルの大友さんと面会。前向きな話となる中で、同じ仙台フィルでインスペクターをしている我妻さんもお紹介いただき、プロジェクトの実現の可能性が見え始める。
9月下旬	野田村出身で久慈市在住の詩人・宇部京子さんに初めてコンタクトを取り、作品や資料を送付。
10月3日	約1年ぶりに野田村を訪れ、宇部京子さんにお目にかかるとともに、「コールわさらび」の練習にもお邪魔し、岩手県北部沿岸部の人たちとの交流が始まる。プロジェクトに関してはしばらく保留のまま、宇部京子さんの詩による作品を少しずつ作曲し、その楽曲を持って定期的に「コールわさらび」の練習指導にお邪魔することとなる。
10月5日	混声合唱組曲「黙礼」(詩:和合亮一)がカワイ出版から刊行。
11月18日	ゆめはっと合唱団第5回定期演奏会(南相馬市民文化会館 大ホール)において、拙作混声合唱組曲「黙礼」が演奏される。これがきっかけとなり、レクイエム・プロジェクト南相馬へとつながっていくことになる。
11月20日	仙台フィルの大友さん、我妻さんとともに、仙台でのプロジェクトの指導や実行委員長をお願いする工藤欣三郎さんと面会。プロジェクトの動きが一気に具体化していく。
12月23日	岩手大学教授の佐々木正利さんとのご縁で、同大学合唱団第59回定期演奏会(盛岡市民文化ホール)において、拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」の全曲演奏が行われる。

2013年

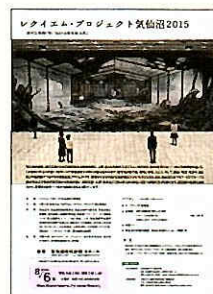
2月中旬	仙台での合唱団員募集を始める。募集記事が河北新報などに掲載される。
4月7日	「レクイエム・プロジェクト仙台」の合唱団練習がスタート。以後、通年のプロジェクトとして毎月2回～3回の練習を現在まで続け、上田自らも月に1度の指導を行なっている。
5月13日	前年に続き、陸前高田と大船渡へ2度目の訪問。メンバーを多数津波で失った「高田合唱団」の指導者で指揮者の伊藤祥子さんに初めてお目にかかる。高田合唱団は、2012年に出版されたばかりの拙作「レクイエム」を、おそらく最初に被災地で演奏した団体。そして、前年もお目にかかった「けせん第九を歌う会」の千葉久美子さんとも再会。2013年11月16日に初めて開催する、仙台でのコンサートへの参加検討などをお伝えした。
6月2日	<想>と題された「けせん第九を歌う会in大船渡」のコンサートで、拙作「黙礼」から3曲が抜粋演奏される。
7月18日	相馬地域の各合唱団の代表などを対象とした「レクイエム・プロジェクト説明会」を南相馬において実施。前年に「黙礼」を演奏した団体を中心となり、合唱団員の募集を始める。
7月25日	女声合唱組曲「黙礼」がカワイ出版から刊行。
9月15日	「レクイエム・プロジェクト南相馬」の合唱団練習がスタート。以後、震災から3年を迎える2014年に向けて月2回程度の練習を継続。



11月16日	レクイエム・プロジェクト仙台2013コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。和合亮一さんをゲストに迎えた仙台で初のコンサート。「黙礼」「レクイエム」のほか、宇部京子さんとの「とうさんの海」の仙台初演を行う。東京と神戸のプロジェクト合唱団有志、けせん第九を歌う会、高田合唱団の有志も参加。コンサートの模様は、河北新報や朝日新聞、読売新聞などに掲載された。
12月16日	野田村の合唱団「コールわさらび」との交流が元になり、いよいよ「レクイエム・プロジェクト北いわて」の活動が始まる。久慈市からの参加者なども受け入れ、まずは震災から3年となる2014年を目指すことに。
<b>2014年</b>	
4月6日	レクイエム・プロジェクト南相馬2014コンサート開催(南相馬市民文化会館)。仙台、東京、神戸、広島でプロジェクトの活動を行う合唱団有志も参加。その他、飯野混声合唱団(福島市)も参加。南相馬では、このコンサートまでの期間限定となったが、同年秋に開催する仙台およびウィーン公演に参加を希望するメンバーのみ練習を継続。コンサートに関して、NHK ラジオ、福島民報、福島民友の各紙に掲載。
7月27日	レクイエム・プロジェクト北いわて2014コンサート開催(野田村体育館)。仙台、東京、神戸、兵庫県佐用町でプロジェクトの活動を行う合唱団有志も参加。これ以後、北いわてでの活動は拠点を久慈市に移し、現在も継続した活動を行う。コンサートはデーリー東北、岩手日報、および神戸新聞や読売新聞の兵庫版にも取り上げられた。
9月21日	レクイエム・プロジェクト仙台2014コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。前年の県外参加者に加え、南相馬でプロジェクトに参加していたメンバー有志、飯野混声合唱団も参加。この年、仙台のケーブルテレビジョンが丁寧に活動とコンサートを取材し、現在もアーカイブで視聴可能。またミヤギテレビのニュース番組でも紹介された。
10月11日	震災犠牲者の追悼と、被災地支援の感謝を込め、ウィーンの聖シュテファン大聖堂公式コンサートとして、レクイエム・プロジェクトのコンサートを開催。仙台、南相馬のメンバー有志のほか仙台フィルのメンバー有志も現地のプロ・オーケストラに加わり、その他全国各地でプロジェクトの活動を行う合唱団有志、ソリストなど総勢158人が日本から参加して開催。大成功となったこのコンサートは、河北新報でも記事として取り上げられた。
<b>2015年</b>	
1月中旬	大阪大学の稲場圭信教授から、気仙沼でのレクイエム・プロジェクト実施の依頼がある。巨大絵画で被災地を描く活動をしている画家・加川広重さんなど、諸分野の人たちとのコラボレーションということで、単発の短い活動となることを前提に準備開始。
3月10日	「けせん第九を歌う会」が報道ステーション(テレビ朝日系列)に出演し、震災から4年を迎えるにあたってのインタビューのほか、拙作「黙礼」から抜粋で2曲目「風」を生演奏で歌う。
4月中旬	日本と同じ震災国であるイタリアにおける、レクイエム・プロジェクトとしての演奏計画打合せが始まる。
7月12日	レクイエム・プロジェクト仙台2015コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。2013年のコンサートの際に、和合亮一さんからレクイエム・プロジェクトの合唱作品を前提とした新作詩の書き下ろし提案があり、その詩による新作初演を含む内容となる。新作の作品は、混声および女声の楽譜2種類がすでにカワイ出版から刊行されている。組曲のタイトルは「光と木の影に」。
8月6日	レクイエム・プロジェクト気仙沼2015コンサート開催(気仙沼市民会館)。
9月6日	レクイエム・プロジェクト北いわて2015コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。活動拠点を久慈市に移してからの初めてのコンサートで、北いわてとしては2回目のコンサート。
<b>2016年</b>	
3月	この年から「けせん第九を歌う会」主催の追悼演奏会に仙台などの合唱団員有志が参加。15日には詩人・宇部京子さんとの作品7曲が、女声(児童)合唱のための「三陸鉄道が行く～小さな村の物語～」として全音楽譜出版社から刊行。
7月18日	レクイエム・プロジェクト北いわて2016コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。活動開始から約3年となり、仙台とともにプロジェクトに参加する人数も増えて充実した活動が継続されていることから、この地域では初めてオーケストラおよび声楽ソリストとのコンサートを実施。
9月16日～25日	日本と同様、大きな地震が多発するイタリアで、被災地同士の交流を図るため、「レクイエム・プロジェクト バチカン・イタリア特別公演～東日本大震災から5年、復興祈念・平和への祈り～」を実施。バチカン教皇庁から特別に許可され、「サン・ピエトロ大聖堂ミサでの演奏」「システィーナ礼拝堂での献唱」(以上2箇所はバチカン)、「聖フランチェスコ聖堂でのコンサート」(アッシジ)、「サンタ・トリニータ教会でのコンサート」(フィレンツェ)の4つの演奏を行なった。全参加者は101人、東日本大震災被災地からは25人が仙台から参加した。また聖フランチェスコ聖堂で世界初演した「ミサ・プレヴィス～平安への祈り～」は、初演に先立ちフランシスコ教皇に楽曲を献呈する栄誉をバチカン教皇庁から与えられた。
10月9日	レクイエム・プロジェクト仙台2016コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。
<b>2017年</b>	
7月16日	レクイエム・プロジェクト仙台2017コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。ローマ教皇への献呈曲などを演奏。
<b>2018年</b>	
3月3日	レクイエム・プロジェクト仙台の活動が5周年を迎えるこの年から、ホール以外の場所での演奏と同じ地域の被災者の方々との交流を目的としたミニコンサートを始め。3日は「せんだい3.11メモリアル交流館」で、7日は復興住宅「あすと長町 第二市営住宅集会所」において、仙台メンバー有志とともにミニコンサートを開催。
7月16日	レクイエム・プロジェクト北いわて2018コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。活動5周年を迎え、この年もオーケストラとともに実施。
8月12日	レクイエム・プロジェクト仙台2018コンサート開催(東北大学百周年記念会館 川内萩ホール)。活動5周年を迎えたコンサート。
9月15日	北いわてでのプロジェクトで取り組んできた地元の詩人・宇部京子さんとの作品第2集が、女声合唱作品集「風のように～三陸鉄道にのって～(全6曲)」として、全音楽譜出版社から刊行。



9月17日	朝日新聞岩手版において、レクイエムプロジェクト北いわての活動やメンバーの震災当時の話などが「3.11 その時 そして」の中で全16回の連載記事として掲載開始。
11月10日	朝日新聞の首都圏から以北全地域で、「歌い上げる、鎮魂と希望 岩手・北三陸で続く合唱プロジェクト 東日本大震災8年目」と題された、レクイエム・プロジェクト北いわてに関する大きな記事が掲載。
<b>2019年</b>	
3月2日	前年より始めた復興住宅でのミニコンサートを、この日は「あすと長町 市営住宅集会所」で、6日には「あすと長町 第二市営住宅集会所」で、仙台プロジェクトの合唱団有志と共に開催。
3月23日	これまで三陸鉄道は南リアス線、北リアス線をJR山田線が繋ぐ形で運行していたが、悲願とも言うべき三陸鉄道リアス線としての一貫運行が開始。この記念式典には北いわてプロジェクトの合唱団員と、釜石出身の東京団員、およびレクイエムプロジェクトの代表と副代表が列席。詩人・宇部京子さんの作品「三陸鉄道が行く」「走れ! 三陸鉄道」を、宮古市、釜石市の高校生たちと共に合唱し、花を添えた。
4月1日	久慈市では、震災の記憶を次世代の子どもたちに繋ぐ取り組みの一つとして、市立の小学校、中学校全校に、レクイエム・プロジェクトで生まれた合唱作品の楽譜「三陸鉄道が行く～小さな村の物語～(全7曲)」と「風のように～三陸鉄道にのって～」の2冊の楽譜(いずれも作詩・宇部京子、作曲・上田益)を配布し、音楽教育での活用を決定。
5月26日	三陸鉄道リアス線誕生記念「走れ! 三陸鉄道 ミニコンサート」(久慈市アンバーホール・大ホール)開催。それに先立ち、前日26日には全国7地域でレクイエム・プロジェクトの活動を行う合唱団員有志約70人が三陸鉄道2両を貸し切り、南の「盛」駅から北の「久慈」駅まで163km全線を移動し、被災地の現状を自らの目に焼き付けた。
6月19日	震災から10年を迎える2021年に仙台で初演し発信する混声合唱組曲の詩を、被災地の取材を長年続けてこられたローカルジャーナリスト・寺島英弥さんに依頼。
8月25日	レクイエム・プロジェクト仙台2019コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。
9月9日	寺島英弥さんから、新作合唱曲のための詩4編の初稿を受け取る。以後、最終稿に向けてプレストを行う。
10月18日～27日	レクイエム・プロジェクト ポーランド特別公演を実施。ソリスト含め全国で活動するレクイエム・プロジェクト関係者のうち、北いわて及び仙台からの33人を含む132人が参加。シフィドニツァ・平和教会、聖カタリーナ教会(クラコフ)、聖マリア教会(クラコフ)、聖十字架教会(ワルシャワ)、ワルシャワ大学における演奏に参加。
<b>2020年</b>	
3月11日	仙台復興住宅でのミニコンサート開催(あすと長町 第二市営住宅集会所)。新型コロナ感染拡大の影響も広がりつつある中、無事に開催。
7月上旬	コロナ禍により、活動を3月後半から6月下旬まで各地とも休止。7月から活動を再開。震災から10年の年に向けた寺島英弥さん詩による新作合唱組曲の練習が、順次始まる。
12月5日	レクイエム・プロジェクト仙台2020コンサート開催(カトリック 元寺小路教会聖堂)。コンサートは8月開催予定だったものを、内容など大幅な変更を行い、日程も変更、感染防止対策を十分に行った上で実施。更には特別なご招待者を除き、無観客で開催。ライブ配信を行った。
<b>2021年 震災から10年</b>	
2月中旬	寺島英弥さん詩による新作合唱組曲全4曲の作曲を終える。時期をほぼ同じくして、宇部京子さん詩による新作「空から」の作曲も終え、仙台はもちろんのこと、全国の活動各地での新作に取り組む練習が本格化していく。
3月10日	仙台復興住宅でのミニコンサート開催(あすと長町 第二市営住宅集会所)。新型コロナ感染拡大の影響により実施は不可能に思えたが、震災から10年を迎える大きな節目となる年であることと、年に一度のこのミニコンサートを楽しみにしてくださっている高齢の被災者の方々の願いもあり、従来よりも演奏人数の縮小や感染防止への配慮を十分行いつつ実施。
5月23日	レクイエム・プロジェクトTOKYO2021開催。当初は5月4日開催予定であったが、緊急事態宣言下での無観客開催要請が発令され延期。紀尾井ホールに、仙台プロジェクトの指導者で指揮者の工藤欣三郎さん、ピアニストの菅原紀子さん、声楽ソリストの小野綾子さんが参加。仙台で初演する寺島英弥さん詩による新作混声合唱組曲から、第3曲「また逢える」を部分初演。
7月18日	レクイエム・プロジェクト北いわて2021コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。
9月11日	レクイエム・プロジェクト仙台2021コンサート開催(多賀城市文化センター・大ホール)。



◆記録(東日本大震災被災地での活動に対する助成、報道)

- <助成> ●宮城県 文化芸術の力による心の復興支援(2016年から5年連続) ●(公財)宮城県文化振興財団 ●仙台市市民文化事業団  
 <報道> ●朝日新聞 ●読売新聞 ●河北新報 ●福島民報社 ●福島民友新聞 ●岩手日報 ●デーリー東北 ●NHK仙台放送局  
 ●ミヤギテレビ ●CAT-V 仙台ケーブルテレビ





**上田 益** ..... 作曲家、レクイエム・プロジェクト主宰者  
 京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。1980年度文化庁芸術家国内研修員として東京で研鑽を積む。長野オリンピック公式楽曲や神戸ルミナリエ、TVドラマ、アニメなど幅広いジャンルの楽曲を手掛ける。2008年に阪神・淡路大震災の被災地・神戸において、「追悼と希望」「大切ないのちへの思い」をテーマとし、レクイエム・プロジェクトを開始。その活動は、地震などの自然災害や戦争で傷ついた全国に現在広がっている。東日本大震災被災地では、北いわて（久慈、野田村など、岩手県北部沿岸地域を中心とした地域）、仙台、気仙沼、福島市、南相馬で活動を行い、大船渡、陸前高田の被災者の方々も参加。その他の地域では神戸、東京、兵庫県佐用町、広島、長崎、沖縄でこれまでプロジェクトが行われ、その多くの地域で継続した活動が行われている。



**工藤欣三郎** ..... 指揮  
 東北大学教育学部音楽科卒業。声楽を渋谷傳、藤井典明両氏に師事。指揮法を福井文彦氏に師事。在学中から様々な合唱団を指導。現在は「合唱団コール・ユーベル」、「男声合唱団せんざん」、「コール・プリランテ」、「こーる・すまいる」、「コスモス合唱団」を指導。その他今年39回を迎える「仙台メサイア演奏会」の常任指揮者、レクイエム・プロジェクト仙台実行委員長、NPO法人「ミュズの夢」副理事長、男の合唱祭仙台実行委員長。宮城県芸術協会会員。宮城県芸術文化功労賞受賞。



**菅原紀子** ..... ピアノ  
 栗原市若柳出身。常盤木学園高等学校音楽科、宮城学院女子大学学芸学部音楽科卒業。同大学卒業演奏会に出演。仁科篤子、伊達華子の各氏に師事。第13回大阪国際音楽コンクール2台ピアノ部門エスポール賞受賞。2016年にはリサイタルを栗原市と仙台市にて開催。2018年には遠野物語・栗原地方のわらべ歌・20世紀初頭のヨーロッパ音楽を題材に、音楽と語りによる演奏会「民話の音色」を企画構成し、遠野、栗原、仙台の3会場で好評を博す。その後も土地に伝わる民話伝承やわらべうたの世界を歩き回り、2019年には遠野少年少女合唱隊の第30回記念演奏会にて、演奏と共に構成も担当した。また、親子で音楽体験 honobono (ほのぼの) を主宰し、0才から参加できる音楽遊びのワークショップを定期的に開催している。☑現在、こーるなんざい、コーラスわかやなぎ、ローゼンシュタットコール、メサイアを歌う会、レクイエムプロジェクト仙台各ピアニスト。カーザムジカ音楽教室講師。宮城県芸術協会会員。

合唱団参加者名簿

レクイエム・プロジェクト仙台 2021 合唱団

ソプラノ ● 宮城久美子、池田紀子、吉岡恵美、三浦静子、長田淳子、花坂郁子、伏見郷子、山内恭子、須貝幸枝、佐賀 慶子、針生利志子  
 武者とわ子、沼崎啓子、若松久美子、山田和子、石井由美子、荒船禎子、高田 薫、武貞育子、平見 安佐子、三條エリ子、山川加津枝  
 アルト ● 菅野尚子、花田美子、三浦芳子、米田典子、柳沼敏子、池田美恵子、木村美佐子、中田令子、米田陽子、島田眞美、青山真理子  
 亀井純子、村上純子、伊藤孝子、江添郷子、島 眞美子、松本新子 テノール ● 海老誠一、大友昭一、寺島英弥、西島恒郎、辻 直浩  
 青山佳弘 バス ● 遣水 初郎、佐山 健、米田和由、石井洋一、平岡昭洋、中元英樹

混声合唱団 グラン有志

ソプラノ ● 大内敏子 テノール ● 伊藤豊美、小松敦博 バス ● 太田農夫也、新美俊信、小川正人、伊藤 晃

女声合唱団 コーロ・カナリーノ

ソプラノ ● 北村信子、齋藤真理子、加藤睦美、小野由起子、梅津美智子 アルト ● 鎌田明美、神山いつみ、大久保千恵子、佐藤美代子

大切なふるさと

指揮：工藤欣三郎 詩、曲：上田 益

<p>1)                  今年も夏が来て ひまわりの花が咲く                  めぐる季節が いのち育み 鮮やかに輝く                  あの日のふるさとの 悲しい思い出を                  私の胸に そっと抱きしめ 未来へ向かおう</p> <p>太陽の光が 希望へと導く                  夜空の月は 未来を照らす</p> <p>いつまでも いつまでも                  あなたの笑顔 忘れない                  いつまでも いつまでも                  大切な ふるさと</p>	<p>2)                  秋の澄み渡る風 冬の凍てつく寒さ                  めぐる季節が いのち育み 静かに春を待つ                  あの日のふるさとの つらい思い出を                  あなたの胸に そっと抱きしめ 未来へ向かおう</p> <p>山々が色づき 夢へと導く                  朝霧がいのちの 扉をひらく</p> <p>いつまでも いつまでも                  きみのやさしさ 忘れない                  いつまでも いつまで                  大切な ふるさと</p>	<p>3)                  暖かな春の陽 花たちは咲き競い                  星になった あなたの思い 清らかに薫る                  菜の花で編んだ 柔らかな架け橋は                  残された人を しっかり結び 未来へ導く</p> <p>美しい桜も 若葉の緑も                  ふるさとの明日を 見守っている</p> <p>※いつまでも いつまでも                  私たちと共に 歩む                  いつまでも いつまでも                  大切な ふるさと</p> <p>(※繰り返し)</p>
---	--	---

混声、同声2部合唱版はカワイ出版から出版。混声3部合唱版は全音楽譜出版社刊・上田益 混声合唱作品集「ふるさとのうた、いのちのうた」に収録されています。





## 「レクイエム・プロジェクト」で生まれた作品の数々

出版されている上田益の合唱作品はこれまで21冊ありますが、  
そのうち20冊が「レクイエム・プロジェクト」の活動やそのご縁で生まれた作品です。



レクイエム  
~あの日を、あなたを  
忘れない~



ラテン語による  
混声合唱作品集  
『いのりのとき』



スターバト・マーテル  
~悲しみの聖母~



ミサ・プレヴィイス  
~平安への祈り~



混声合唱組曲  
『黙礼』



女声合唱組曲  
『黙礼』



混声合唱組曲  
『遙かなる海へ』



女声合唱組曲  
『遙かなる海へ』



女声合唱のための  
『4つの愛のうた』



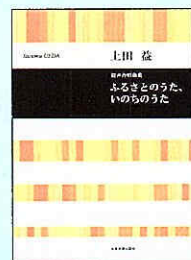
女声(児童)合唱のための  
三陸鉄道が行く  
~小さな村の物語~



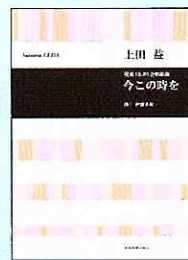
混声合唱組曲  
『光と木の影に』



女声合唱組曲  
『光と木の影に』



混声合唱曲集  
『ふるさとこのうた、  
いのちのうた』



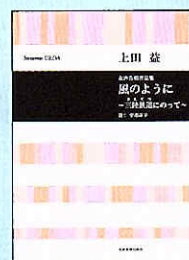
児童(女声)合唱組曲  
『今この時を』



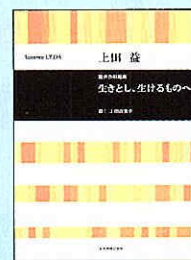
女声合唱組曲  
『こころの  
アルバム』



混声合唱組曲  
『名もなき  
ところへ』



女声合唱作品集  
『風のように  
~三陸鉄道にのって~』



混声合唱組曲  
『生きとし、  
生けるものへ』



混声合唱組曲  
『風の旅路』



女声合唱のための  
『草原二題』

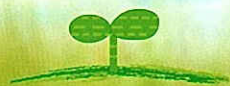








技術の力で未来を支える



建設ファスニング技術を通じて道路・鉄道・建築耐震などの安全対策に注力し、社会の発展と環境づくりに貢献します。

GBRC 性能証明 第01-03号改2

### ハイブリット 耐震補強工法

本工法は、工事中の騒音や振動、粉塵を軽減できる特長を生かしながら、病院や学校あるいは事務所建築を中心とした、居ながらの耐震補強工事を可能としました。



内付工法 内装仕上げ例

外付工法 外観



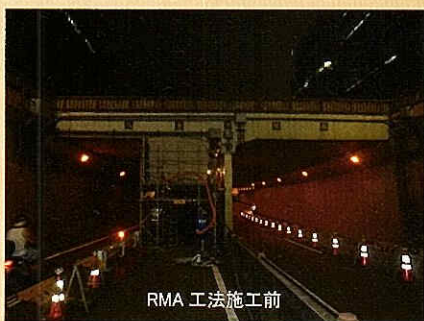
ケー・エフ・シーはレクイエム・プロジェクトを応援します！



建技審証第1203号

### せん断補強 RMA 工法

「既存ボックスカルバートや擁壁などの連続壁に対し、内空断面を侵さず補強を行いたい。」そんな希望にお応えするため開発されたのが、RMA 工法です。



RMA 工法施工前



RMA 工法施工後

#### 【事業内容】

耐震関連工事の設計・施工及び環境・安全施設工事  
建設用ファスナー類及び付属品の販売・施工  
トンネル掘削用資材の販売

#### 【事業所】

東京・大阪・名古屋・仙台  
横浜・静岡・岡山・広島・福岡



株式会社 ケー・エフ・シー

<http://www.kfc-net.co.jp>